

第47号

大阪市史跡 龍溪禅師墓所 雲屯山 九島院

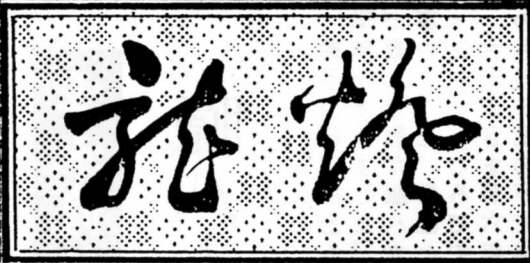
発行所

〒550-0022 大阪市西区本田3丁目4番18号

TEL 06(6583)2725 FAX 06(6583)0908

発行者

第二十五世住職 奥田啓知(智證)



おめでとうオリックス・バッファローズ! がんばれ大阪ドーム!

指導力不足の高校教員増加

評価にこだわるな!

旧聞に属しますが、愛媛県教育委員会が県立高校六十三校の校長に、「指導力不足の教員」を各校一人以上選んで報告させたそうです。そして、この中から数人を選定し、選定された教員らは、現場の校長より「指導力不足」を告知され、現職研修を受けさせたとの報道があり、大変論議を呼びました。

有能な社員と無能な社員の例で、全く逆の話があります。

ある会社で、その会社の命運をかけたプロジェクト・チームをつくる必要が生じたという。それで、各課からナンバーワンの社員を集めてきたのである。しかし、そのチームが発足したとたん、そのなかにどうしようもないクズが出来たというのである。(増原良彦著「釈迦の読み方」祥文社による)

仏教では、空(くう)ということを教えています。「空」とは、固定的なものごとを捉えてはならないことをいいます。社員のできる・できないといった評価も、しょせん相対的な

もので、状況に応じて、できる社員ができない社員になったりその逆もありえるのです。絶対的にできる社員もいないし、絶対的にできない社員もいないのです。

この愛媛県の場合も、生徒の能力、地域差、伝統や職員の構成、学校長の指導力の差もそれぞれ違っているのにもかかわらず、一律に各校一人以上選んで報告させたことが間違いなので

Aという学校では指導力を発揮できなかった教員もBという学校では有能な教員になるかもしれないのです。

仏教では、できる・できないといった相対的評価を超越して人間存在そのものは「空(くう)」であること、教えています。般若心経の「色即是空」がこれなのです。「色(しき)」とは「存在」のことであり、「色」即ち、あらゆる存在が「空」だ

というのです。

したがって、仏教の「空(くう)」の教えでは、私たちは人間を絶対的には評価できないのです。

しかし、「評価するな!」と言われても、現実の生活の中で評価しなくてはなりません。不可能なことですが、やむをえず評価するのであれば、その評価を絶対だと思っはいけない、「評価にこだわるな!」と、仏教では教えているのです。

現在問題となっている「教員の資質」については、わいせつ行為やセクシャルハラスメント(性的嫌がらせ)で懲戒処分を受けるような教員や生徒がうける問題は解けなかった。教員などとは論外ですが、日教組の「勤評闘争」によって教師への勤務評定ができないこと、あぐらをかき、自己研鑽・資質向上の努力を怠ってきた教員にも、責任の一端があるように思えます



雲水修行報告

臘八大接心を終えて

弟子の穂積禅士も入堂から半年がすぎました。禅堂修行で最も過酷な臘八大接心も無事のりこえ、師匠としてもホットしたところでした。

お釈迦さまが六年の苦行ののち菩提樹の下で禪定に入り十二月八日の明けの明星をみて、お悟りをひらいたという故事にちなみ、十二月一日から八日の朝までひたすら坐禅を続けるのが、臘八大接心（ろうはつおおぜっしん）です。夜横になることも許されず午前零時半から三時までの間に、わずかに坐睡をできるだけ、病氣、肉親の不幸にも帰省はできません。まさに「雲水殺し」といわれる厳しいものです。

黄檗宗報より報告文を転載させていただきます。

十一月三十日、午後六時半東方丈にて総茶礼が行われ、いよいよ臘八大接心が始まる雲水にとって一年の総決算

ともいえる八日間の幕開けである。

その昔、お釈迦様が菩提樹の下で坐禅をし、十二月八日早朝明星の輝く頃、大いなる悟りを開かれたという故事に因み、禅宗各派の僧堂において行われるのである。

十二月一日午前三時。まだ真つ暗闇の中から巡照板をたたき音が聞こえてくる。いよいよだ。月例接心を通じて、幾分かの慣れを感じ始めている新到にとっては、さほど気が負ったものもなく、落ち着いた様子であった。しかし、時間が経つにつれて寒さのせいか足が痛くなり睡魔も襲ってくる。一日目の夜坐終了後には月例接心とは何かが違うことは気付き始めていた。

坐睡。初めての経験で気が高ぶっているためか、うまく座れない。そんな中、臘八が二度目、三度目になる高単の方々は、落ち着いた様子で坐睡をはじめている。あれこれ

考えているうちに、また再び巡照板の音が聞こえてくる。二日目、三日目と日が経つにつれて、何か重くのしかかった様な体と不安な心とが入り混じって、この時やっとな臘八を実感した。

月例の接心は五日間。今までに味わったことのない六日目に突入する。

しかし、この頃には落ち着きを取り戻し、公案と参禅に取り組む日々を過ごしていた。十二月にしては、多少暖かい日もあったがさすがに朝晩の冷え込みは厳しく、夜坐中の坐睡も思うようにはいかなかった。

そして八日目午前三時。東方丈からの鐘の音が聞こえてきた。暁天換鐘だ。まさしくこの時、お釈迦様は自分の心中に仏性が存在することを自覚され悟りを開かれたというその後、接了茶礼が執り行われ

無魔円成の運びとなった。落者も一人として出ず、皆暁明星を見たことは雲水にとてこの上ない喜びであった。最後に今回の臘八接心を支ってくれた諸大徳各位に感謝つつ、接心を怠ることなく々々精進していく所存である。

(侍者 信悟) 合掌



臘八大接心 大本山萬福寺禅堂前（平成16年12月8日）
後列右から3人目が穂積禅士

おめでとウオリックス・バッファローズ！ がんばれ大阪ドーム！

2004年(平成16年)11月14日 日曜日

(18)

檀信徒の皆さまへ

○マンドリンコンサート

三月二十三日(水)の山門会(彼岸法要)のあと、午後二時過ぎぐらいより、アンサンブル・ミズの皆さんによるマンドリンミニコンサートを

開催します。
古賀政男さんの創設した明治大学のマンドリンクラブのOGが中心になって結成され十周年を迎え、各地で演奏活動されています。素晴らしい演奏をお楽しみ下さい。

年の暮れ

女房の声高くなり

相合傘句会12/22 句題「年末」で 古川賞・新野新賞

※大阪日日新聞に掲載されました。九島院の大家恩人、豪商の「飯田直好」が紹介されました。

阪神西大阪線難波延伸工事すむ

鉄道沿線 ざり旅

温かい日たまりが車窓を通して足元にできる。地下鉄が地上に出た瞬間だ。九条駅から地下鉄は高架鉄道になる。六番出口を降りると広々とした空間が魅力の「ナインモール九条」商店街。近所のおばちゃんたちが染、そくにおしやべりしている。しかしこの雰囲気、少し北側にそれると、変ずる。

市営地下鉄 中央線

①



飯田直好

が時代を超えて日常の世界に溶け込んでいる大阪のすみ。この「松島商店会」は一八八八年以来、今の千代崎に位置し、西の吉原と呼ばれた松島遊郭の名残だが、北東に少し歩くと、一九四五年に郭(くるわ)の女性たちを襲った悲劇を残す寺がある。

九条駅 (大阪市)

「大阪大空襲でなくなった家の毒な女性が二百人以上に溶け込んでいた。船問屋の主人に出世。本来なら巨万の富を得ると、生来慈悲深く施しを好む、生輝清吉(身を置いた)が記されている。奥田啓知住職(まご)は「一九四四年に開通、市の方は本院の修復や行事の復興にも貢献して下さいました」と話す。もつれたお天井裏で川が流れる地下道すが、皆さんとあいさつを交わします」とエレベーター

の持ち主とは、西に五百ほど行った九島院でも出会える。十八世紀に活躍し、社会慈善に尽くした商人、飯田直好の墓がここにある。人の息子だった彼が、幼少のころから大志を抱いて船に乗り込み、苦勞の末、回船問屋の主人に出世。本来なら巨万の富を得ると、生来慈悲深く施しを好む、生輝清吉(身を置いた)が記されている。奥田啓知住職(まご)は「一九四四年に開通、市の方は本院の修復や行事の復興にも貢献して下さいました」と話す。もつれたお天井裏で川が流れる地下道すが、皆さんとあいさつを交わします」とエレベーター



尾崎武生駅長

慈悲深き大阪との出会い

「一日約六千人が利用しますが、皆さんとあいさつを交わします」とエレベーター

「担当の遠藤勝也さん(まご)。こんな都心の真ん中であいさつの文化が生きていたことに新鮮な感動を覚えた。それぞれの場所と心温まる体験をし、九条駅を後にする。足元に見える日たまりはいつの間にか反対の窓から差し込んでいた。」(豊野由恵記者)

奉納抄

編集後記

○山門幕奉納（本年、元旦）

妹君日野辰江さま三十三回忌の供養にと、岩村美知子さまから喜捨された志納金で新添しました。

○墨跡多数寄贈（平成十六年十一月）

森崎章弘さまより、兄蘭外先生が墨された半折多数ご寄贈頂きました

● 人生相談

テレビのワイドショー番組で、よく人生相談なるものを見ることがあります。常識的な答えに終始し聞き流すことが多いのですが、思わず引き込まれる人生相談に出会いました。

相談員は三輪昭宏氏、彼は「よいとまけの唄」でもデビュー以来、摩訶不思議なキャラクターで男でもなく女でもなく、作家の三島由紀夫の恋人とも称されたこともありました。天草四郎の生まれ変わりとか公言するなど一風変わった神がかりの人物です。

離婚を相談する主婦の訴えをひと通り聞いたあとう問答を通して「あなたは、ご主人の気持ちを判ろうとしたことがありますか?」「自分が変われば、ご主人も変わるのよ。地獄・極楽はあなた自身がつくっているのよ」「お子たちに対して、そんな言葉づかいで話しているの?昔、親はこどもの「うん」という返事も「はい」と言いなさいって教えたでしょ」「ご主人に対する話し方を心掛けなさい」などと妻の実家で同居するマスオさんのご主人の気持ちと主婦がいたらぬ点をこんこんと説いていました。最後には、主婦も自分の至らなさに気づき、涙ながらに無垢の心うちを吐露していました。

古代ギリシャの哲人ソクラテスは、青年たちが知っていると心得ていることが、実際には何にも知っていないということ（無知の知）を判らせて、善導したそうです。まさにソクラテスを彷彿する人生相談でした。

「あんさん、別れなはれ！」で一世を風靡した融紅蘭など、世に人生相談の達人は多くいますが、三輪昭宏氏の相談には、氏の独特なキャラクターとあいまって氏の人間力の大きさを感じ、思わず傍らの愚妻に「すごいなあ三輪昭宏って、ただもんやないなあ」と言うと、妻曰く「ただもんやない、化けもんや」との返事に、啞然とした小生でした。



阪神西大阪線難波延伸工事すすむ

▼「十年ひと昔」といいます。九島院の住持として、今年で十七年目を迎えたアバウトで「ふた昔」となりました。
▼お寺を再興し、後継者も出来つつあります。
▼十年あまり続けてきた「坐禅の会」「漢詩勉強会」いづれの指導者も他界されました。時代は流れているのです。
▼九月から、新命（若和尚）は檀家デ

ビューします。先代から引き継いだ九島院の法燈をまもなく新命和尚につなぐことができ、ホットしています。
▼いよいよ、今年から戦後のベビーブームの団塊の世代が退職をむかえ、日本は超高齢社会に突入するわけですが定年退職は人生の終着駅ではありません。終着駅は始発駅。定年後の新たな人生の始まりなのです。
▼新命和尚は僧侶のいろはを修行中ですが、お寺へ帰った後は、住職のいろはを勉強しなければなりません。師匠として伝えることに一区切りついたら隠居し新たな人生を歩む所存です。

山門会・お彼岸法要

3月23日（水）
午後1時半より

※ご先祖供養です。宗旨に関係ありません
ご回向お申し込み下さい。

マンドリンコンサート・明大OG

ご案内